

令和 2 年 10 月定例

伊達市教育委員会 会議録

令和 2 年 10 月 14 日開催

令和2年10月定例伊達市教育委員会会議録

1. 開催日時 令和2年10月14日（水）13時30分～
2. 開催場所 伊達市役所東棟3階 庁議室
3. 出席者 教育長 菅野 善昌
1番 高野 保夫 委員（教育長職務代理者）
2番 菅野 千恵子 委員
3番 三品 清重郎 委員
4番 関根 勝富 委員
4. 欠席委員 なし
5. 説明のため出席した者
教育部長 田中 清美
教育総務課長
（兼学校給食センター所長） 土田 一紀
教育総務課主幹（教育施設担当） 佐藤 真
生涯学習課長 森林 敏昭
学校教育課長 熊澤 正人
こども部長 橘内 重康
こども支援課長 寺田 和也
こども育成課長 桃井 秀孝
6. 本委員会書記
教育総務課総務企画係長 富田 昭子
教育総務課総務企画係主事 大橋 勝

7. 日程1 開会

○菅野教育長 令和2年10月定例伊達市教育委員会会議を開会します。本日は全員出席しているため、会議が成立しました。開会時刻は13時30分です。

8. 日程2 会期の決定

○菅野教育長

会期決定についてお諮りします。会期は、本日14日にしたいと思います。異

議ありませんか。

【委員より異議なしの声あり】

○菅野教育長 異議なしと認め、会期は本日14日と決定します

9. 日程3 議事録署名委員の指名

○菅野教育長 議事録署名の指名に移ります。本日の議事録署名は、3番三品委員と4番関根委員にお願いします。また、9月定例会の会議録は高野委員と菅野委員に署名いただいていることを報告します。

10. 日程4 会議の進め方

○菅野教育長 本日の会議の進め方について、土田教育総務課長から説明願います。

○土田教育総務課長 会議次第により説明

1 議 事

議案第34号 伊達市教育委員会事務事業点検評価委員会報告書について

2 協議

1 第2期 伊達市教育振興基本計画について

2 令和2年度 伊達市教育委員会教育行政経営方針について

3 令和2年度 第2回総合教育会議の議題について

3 報告

11. 日程5 傍聴の許可

○菅野教育長 傍聴希望の方はいますか。

○富田総務企画係長 いません。

12. 日程6 議事

○菅野教育長 「議案第34号 伊達市教育委員会事務事業点検評価委員会報告書について」教育総務課長から概要説明後、各担当課長から点検評価結果の説明をお願いします。

○土田教育総務課長 資料により概要説明

○桃井こども育成課長 資料により説明

○寺田こども支援課長 資料により説明

○熊澤学校教育課長 資料により説明

○森林生涯学習課長 資料により説明

○菅野教育長 議案第34号について、委員の質疑をお願いします。

○三品委員 以前に比べると評価の仕方が分かりやすくなっているが、更に分かりやすくすることも可能なのではないかと思う。成果の指標である見込値がどの程度適正なのか分からない。例として、こども支援の施策数であれば、令和2年度から毎年施設数が3個ずつ増える見込みになっているが、現在3個あると捉えることもできる。実績値が2個と記載があるが分かりづらい。また毎年3個増える場合、予算が増えていくと考えてよいのか。予算化に関わることであれば、一次評価の効率性に数値を入れることで分かりやすくなると感じた。放課後児童クラブの登録児童数は774人、令和元年度が約1億6千300万円であれば、1人当たり200万円費用が掛かっていることになる。民間的に考えると、効率的ではない。教育相談事業であれば人数が60～70名に2億円使われており、1人当たり支援するために約300万円使われていることになる。数値で評価することにより、評価委員も判断しやすいと思う。また評価委員の中に民間の方が入っていないため、数値などが見逃されてしまっているのではないかと思う。次回民間の視点を持った方が、委員なることによって数値を入れた考察が出来るのではないかと考える。

○土田教育総務課長 いただいた意見を今後検討する。また委員については事務事業点検評価委員会設置要綱、第3条にその他教育委員会が必要と認める者とあるため合わせて検討する。

○田中教育部長 教育相談事業の成果指標に、不登校児童生徒数のみ記載されており、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等への相談件数は記載がない。成果指標が適切か内部においても検討している。基本計画の中の成果指標になっているため、毎年の見直しは難しい。

○高野委員 民間の方が評価委員になることで適正な評価につながると思う。財政的な効率化を図るうえで委員の人選や成果指標の課題が残っていると感じた。今年度は11項目から8項目へ変更されているため費用対効果等についても記載してほしい。

○菅野教育長 重点化されている事業になるため具体的な形で成果が見えるようにしてほしいと思う。

○高野委員 令和元年度事業について点検評価しているが、平成30年度、令和2年度の予算が記載されている。どのように理解すればよいか。

○田中教育部長 事務事業点検評価は毎年9月まで協議をしている。平成30年度、令和元年度は決算額、令和2年度は予算額を記載している。令和元年度の点検結果は令和3年度の予算編成に反映される。

○高野委員 後に議題となる令和2年度教育行政経営方針に関わってくるが、令和元年度の点検評価の段階において、令和2年度の予算が示されているということは、経営方針の骨格が固まっており予算化されていると思う。10月に令和2年度の経営方針を議論するということは立ち遅れていると思う。令和2年度の予算は記載せずともよいのではないか。

○田中教育部長 事務事業点検評価結果表は3年間の推移を見るため、令和2年度の予算を記載している。担当部局にいただいた意見をお伝えする。

○菅野教育長 他に委員から意見はありますか。

○菅野委員 昨年度は高子住宅開発に合わせ、上保原児童館の建設を協議していると記載があったが、今年度は触れられていない。計画は現在進行しているのか。

○桃井こども育成課長 上保原児童クラブは老朽化が進んでおり、改修を考えていた。内部で協議を行っているが改修まで至っていない。現在も協議中である。

○菅野教育長 他に委員から意見はありますか。

○高野委員 小・中連携学力向上推進事業の意見の部分に「文章の読解力を評価・分析し、指導の改善につながるリーディングスキルテスト（RST）が注目されている。」とある。その答えとして「本市全体の学力向上対策の中で総合的に検討していく。」と記載されているが、現在は1つの学校に絞り実施しているが、

今後市全体に広めていくと理解してよいのか。

○熊澤学校教育課長 昨年もリーディングスキルテストの導入に向け調査を行った。その結果、単価が高額なこととリーディングスキルテストに対応することができる学年は小学5年生から。これらのことから、昨年の段階では本市全ての学校に導入は困難と判断した。今年度から県の事業において、上保原小学校がリーディングスキルテストを活用した学力向上に取り組んでいる。この結果を分析し、どのように広めていくか総合的に検討している

○高野委員 予算が関わってくるため、判断は慎重に行うべきだが、子ども達の文章読解力が低いことは事実。対策をしなければ現状を脱することは出来ない。相馬市では市全体でリーディングスキルテストに取り組んでいる。全ての教科の基礎である文章読解力を高めることは、必要になってくる。

○菅野教育長 他に委員から意見はありますか。なければ質疑なしと認め、質疑を終結します。

これより採決に入ります。本案は原案のとおり決することに異議ありませんか。

【委員より異議なしの声あり】

異議なしと認め、「議案第34号 伊達市教育委員会事務事業点検評価委員会報告書について」原案のとおり可決されました。

13. 日程7 協議

○菅野教育長 協議に移ります。

- 1 第2期 伊達市教育振興基本計画について
- 2 令和2年度 伊達市教育委員会教育行政経営方針について
- 3 令和2年度 第2回総合教育会議の議題について

まずは第2期伊達市教育振興基本計画について、教育総務課長から説明願います。

○土田教育総務課長 資料により説明

○菅野教育長 委員から意見はありますか。

○高野委員 国際理解教育支援の部分であるが「小学校低学年から9年間の切

れ目のない英語学習の実施」と記載がある。教育課程上の問題は3、4年生から英語学習が始まるが9年間ということは、小学1年生も含まれるため、他教科の学習時間が減少してしまうことが懸念される。低学年への国語、英語の指導の両立は出来るのか。国語の学習を基礎に考え、英語の学習に慣れさせるべきなのではないかと思う。そのため小学校1年生から9年間の英語学習は踏み込み過ぎていると感じた。

○熊澤学校教育課長 市内の就学前の教育においてALTに来ていただき、英語に親しんでもらおうという動きがある。就学前から中学3年生までの間で、小学1、2年生のみが英語教育に関わっていない。案として生活の時間を年間約5時間使い、英語に親しむ活動に充てることを考えている。英語の授業は指導要領に基づき、小学3年生から行っていく。小学校低学年から英語に親しむことで、英語学習の楽しさを知り、学習意欲が向上し、小学校高学年で質の高い英語教育が行える。また受験において進学できる学校の幅も広がると考えている。

○田中教育部長 月舘学園の小学1、2年生は給食の時間をALTと過ごし、英語に親しむ時間を設け、子ども達からも好評だと聞いている。就学前から英語に親しんでいるため、小学1、2年生で途切れさせないように考えている。読解力向上はリーディングスキルなども含め、検討を進めていく。

○菅野教育長 昨年、認定こども園の取組みを見学してきた。英語に親しむことが主になりがちであるが、ALTの出身国の歴史、文化、習慣などに触れることが子ども達にとって大切である。

○高野委員 中学3年生にどのような英語力を身に付けさせ、高校に送り出すのか。目標を考えておくべき。

○菅野教育長 月舘学園の現状や、取組みについて学校教育課長から説明願います。

○熊澤学校教育課長 文部科学省からの英語教育の指標として、英検3級を何名取得しているかが挙げられる。本市の中学3年生の英検3級取得率は約41%、全国的には約44%となっている。本年度の試験がもう1回行われるため、取得率が50%以上になると予想される。月舘学園では55%、他中学校は50%を目指している。英語で日常会話ができるようにという記載は、英検3級で可能な事なのか等について今後検討していきたい。

○菅野教育長 他に委員から意見はありますか。

次に令和２年度 伊達市教育委員会教育行政経営方針について教育総務課長より説明願います。

○土田教育総務課長 資料により説明。

○菅野教育長 前回いただいた意見をもとに新たに提案する。委員から意見はありますか。

○高野委員 令和２年度伊達市教育委員会教育行政経営方針が決定していないため、教育要覧を作成出来ないと説明があった。しかし今年度の半年が経過し、予算は執行されているが、行政経営方針が決定しないということだけでは説明がつかないと感じる。

○土田教育総務課長 第２次総合基本計画後期基本計画策定後に伊達市教育振興基本計画を改定する予定であったが、その改定が遅れている。伊達市教育振興基本計画に掲載する５年分の主要事業の決定後に、教育要覧に教育行政経営方針として、１年分の主要事業の内容を掲載するため、教育要覧の作成も遅れている。

○高野委員 今年度に入っても教育課程が定まっていないということはありません。半年が経過し教育委員が変わり、重点も明確になり予算も編成されている。このことに見合った形で教育要覧を作成するべきであると感じる。作成が遅くなりすぎると今年度の教育要覧を作成した意味がなくなってしまう。

○菅野教育長 現場は動いているため、教育委員会は方針を現場に示しながら、教育の進行状況を管理していく必要がある。教育要覧は今年度の使用になる。学校基本調査などは５月１日付けで行われる。その後、国から示される数値で有効になってくる。そのため教育要覧完成が７月頃になってしまうということが現状。行政は方針を持ち、現場へ指導、支援をしていくことが本来求められていること。いただいた意見をもとに早急に発行出来るように進めていく。またそれぞれの市の総合計画の兼ね合いなどもあり、他市町村からの教育要覧も８月頃に本市に届いている。

○高野委員 冊子が薄い教育要覧でも良い。本市の教育方針を最低限記載でき

れば伝わる。本市の行政経営方針を内外に示すという意味で立ち遅れていると思う。

○菅野委員 昨年度の教育要覧は6月に発行されている。数年前にも10月頃に発行された時は、学校でボランティアをしている際に「やっと届いた」という声があった。今年は新型コロナウイルスの影響で遅れているということもあるが、令和2年度伊達市教育要覧として発行するのであれば、7、8月には発行してほしい。

○菅野教育長 他に委員から意見はありますか。

意見を教育要覧に反映させ、早急に発行できるようにする。
次に令和2年度第2回総合教育会議の議題について、教育総務課長から説明願います。

○土田教育総務課長 第2回総合教育会議は11月12日（木）15：00から開催する。第1回目は時間の関係上、「学力向上のための施策について」のみの協議となった。協議できなかった「地域の元気を活かす取組みについて」を議題に挙げるのか、他の議題にするのかなど委員から意見をいただきたい。

○菅野教育長 委員から意見はありますか。

○高野委員 市内小中学校から選ばれた市民憲章の作文を読んでいるが、月舘学園の児童生徒の作文は、自分の考えを文章に表そうとしているものが多い。子ども達の文章表現力が高まってきていると感じる。本市の目玉である月舘学園が取り組んでいる「ふるさと学習」の中身はどのように考えていくのか。総合教育会議で議論する際に、焦点を絞らなければ会議を開く意義が明確にならなくなるのではと感じた。個人的な考えは、月舘学園の特徴や取組みを市内外に発信するためにはどうするかについて会議で協議をしたい。

○田中教育部長 掛田小学校への統廃合を進めている。霊山地域はどのような特徴があり、どのように教育につなげるかについて、まとめた資料がある。月舘地域以外で施設一体型小中一貫校を展開することは困難であるが、掛田小学校と霊山中中学校が隣接しており、霊山では接続型小中一貫教育が可能であるという発想に至った。今後の小中一貫教育についてであれば、議論が可能である。9月議会でも月舘学園開校から半年が経過するが、小中一貫校のメリット、デメリットの質疑があった。霊山での取組みをモデルとして、他の旧町に小中一

貫連携教育を展開したいと教育委員会では考えている。

○菅野教育長 委員から意見はありますか。

○関根委員 月舘学園の成果や今後の課題について議論できればと思う。霊山地区でも様々な意見を出し合い、小中一貫教育について話したい。

○熊澤学校教育課長 「霊山の新しい教育（案）」について資料により説明

○田中教育部長 案では接続型小中一貫教育としている。効果が得られれば、月舘学園のような小中一貫校も視野に入れて進めたい。今まで大石小学校、石田小学校、小国小学校の保護者へ説明を行った中で、霊山地域の小学校4校の交流はなかったと意見があり、今年度は霊山地域小・中学校の交流を計画している。

○菅野教育長 月舘学園が開校し、取組みを振り返りながら成果をどのように市内外に広めていくのか。本市の教育の方向性をどのように展開すればよいかについて協議を進めるということで良いか。

○高野委員 大きくは「本市の小中一貫教育の現状と将来の展望」と示し、（１）「月舘学園の現状」、（２）「霊山地区の小中一貫校の考え方」はどうか。先ほどの説明だが、地域内に寄り過ぎているのではないかと感じる。霊山のよさにふれ、ということは豊かな自然に触れることであると思う。学校教育の周りの問題を取り上げることで更に良くなるのではと思う。石田地区が国際理解教育を進めており、霊山だけではなく、外の世界と繋がっているということを霊山の新しい教育の中に取り込み、考えて良いのではと思う。外の情報が入ってくことで霊山が更に発展していくと思う。外と内のデザインをしておくことが必要であると感じる。養蚕にも触れられているが、突き詰めて考えれば、技術革新や先端技術と繋がっており、伝統技術の復活にもつながると思う。霊山地区だけでなく広い視野を持っても良いのでは。

○熊澤学校教育課長 いただいた意見をもとに視野を広く持ち、より良いものを作っていきたい。

○田中教育部長 「霊山のよさにふれ」を教育委員会では歴史に触れるということ想定していた。歴史でも市外と関わられるようにしていきたいと感じた。

現段階では概要のため、今後意見をいただきたい。総合教育会議では本市の教育の底上げにつなげていきたいと思う。

○菅野教育長 より良い教育の方向性を探っていききたいと思う。

14. 日程 8 報告

○菅野教育長 日程 8 の報告に移ります。

令和 2 年度 10 月定例教育委員会会議 教育長報告資料

1 学校の適正規模・適正配置事業

(1) 大石小学校の掛田小学校への統合に向けて

① 令和 2 年 9 月議会

伊達市立学校設置条例の一部を改正する条例の可決

② 大石小学校の閉校

※ 令和 3 年 3 月 31 日付け閉校

ア 閉校式

主催：伊達市教育委員会（期日検討中）

イ 閉校に係る記念事業等

主催：大石小学校閉校記念事業実行委員会（事業内容及び期日検討中）

(2) 霊山の新しい教育の構想について〔学校教育課〕

○熊澤学校教育課長 資料により説明

2 新型コロナウイルス感染症への対応関連

(1) 通学合宿体験活動事業の中止に伴う代替事業〔生涯学習課〕

(2) 成人式〔生涯学習課〕

○森林生涯学習課長 資料により説明

3 各種大会・コンクール等への参加（体位・体力の向上、たくましい心の育成、豊かな人間性・社会性の育成、地域との交流）

(1) 県中学校新人陸上競技大会県北地区予選会

〔各種目の上位 4 人は県大会へ出場〕

① 男子〔県大会出場者〕

○ 1 年 1,500M : 3 位 児島源二郎（桃陵中）

○ 共通走り高跳び : 3 位 菅野 宰（桃陵中）

○ 2 年砲丸投げ : 2 位 菅野 宰（桃陵中）

② 女子〔県大会出場者〕

○ 2 年砲丸投げ : 堀内 夢（桃陵中）

(2) 第 4 2 回少年の主張福島県大会

優秀賞 : 高野 莉歩（伊達中）

※ 県大会に選出されたが出場辞退 : 菅野花織（桃陵中）

(3) 県下水道ポスターコンクール

① 低学年

○ 下水道公社理事長賞：遠藤咲斗（上保原小）

○ 入選：西戸 愛翔（保原小）

② 高学年

○ 県北浄化センター所長賞：佐藤 凜花（保原小）

○ 入選：後藤 陸空（小国小）、狗飼 梨央（小国小）

4 その他

（１）学校だより、新聞報道等から

（２）その他

○菅野教育長 委員から意見はありますか。

次に各委員から報告願います。

○関根委員 石田小学校、小国小学校に通う子どもの保護者に話を聞いたが、掛田小学校に吸収されてしまうということに抵抗があると言っていた。接続型小中一貫校であれば納得してもらえるのではと思った。地域独自で行っていた行事はどのようになってしまうのか、についても心配していた。また子ども同士、保護者同士の交流がないため、交流の場を増やし、みんなでまとまれる機会があればよいと感じた。

○田中教育部長 各学校から要望、意見をいただいた。掛田小学校に吸収ということではなく、教育委員会として新しい学校をどのように作っていくのかということで進めたい。大石小学校以外の学校には今後「霊山の新しい教育(案)」を説明する。

○菅野教育長 次に９月定例議会の報告を願います。

○田中教育部長 資料により説明

○橋内こども部長 資料により説明

○菅野教育長 委員から質問はありますか。

次に各課からの報告願います。

次にその他、教育委員会行事報告に移ります。

○土田教育総務課長 資料により説明

○菅野教育長 次回の日程について事務局から説明願います。

○土田教育総務課長 次回の定例教育委員会会議

日時 令和2年11月17日（火）13時30分～

会場 庁議室

○菅野教育長 本日の10月定例教育委員会会議は、16時11分で終了します。

15. 日程9 閉 会 16時11分

上記記録の正確なことを認め、ここに署名する。

令和2年10月14日

議事録署名人

3番委員

4番委員

議事録調製者 教育総務課総務企画係主事 大橋 勝